

## 雜報

## ●藤井望遠鏡

かつて前々號第四十八頁に記した通り、自分は昨年末、大津市石場に我が同好會員藤井善助氏の別荘月光亭を訪ひ同所備付の六吋望遠鏡を拜見した。此の望遠鏡は正確に言へば對物レンズの直徑六吋八分の三(十六センチ)、焦點距離百五十七センチの堂々たるもので、レンズはスタインハイル製器械部はザル、リウス製で、純粹の獨逸舶來品である。取り付け方は經緯式と赤道儀式と兩方の設備が別々にしてあるが、自分が見たのは經緯式の臺に載せられてあつて、赤道儀式の方は掩はれてあつた、就いて見ると赤道儀臺は普通の獨逸型であるが、(時計仕掛は無い)經緯式は縱横兩軸の作り方、其の締め方等が實に斬新である。殊に其の微動装置は接眼部をVで受けて、互ひに直角の兩栓で調節する工合は奇抜であると思つた。器械の中央直軸が望遠鏡と釣合重錘との重心を支へてゐるから天頂の星でも自由に觀望が出来る。

接眼鏡は地上用一個(其倍率三十倍)天體用が六個其の倍率は六十倍から五百倍まである

又別に接眼分光器と寫眞装置が附屬してゐるのは、いかにも氣がきいてゐると思つた。

此の器械を入れる家には隨分苦勞が拂はれてゐる。設計と製作とは主として京都の島津製作所が之れにあたり、經緯臺の三つ足に其のまゝ車をつけ、三本軌道の上を走つて、屋内から屋外に取り出せる様になつてゐる。

場所は琵琶湖畔第一の勝景を恣にしてゐる園内で、見渡せば比叡比良の秀峰が遠く



續いて湖の西岸に迫り、之れと相對して東には、近くは田上山や近江富士、遠くは伊勢美濃境の山々が並んで、遙かに伊吹の靈山が見ゆる。此の絶景に對して、肉眼を放つともよいが、一度び六吋を向けると遠く相距つた近江八景が忽ち目睫の中に迫つて來るのだから堪らない。

去る日、再び自分が藤井氏を訪れた時、氏は

望遠鏡を赤道儀臺にのせるべく家の構造を考へ申だこの由であつた。遠からず此の湖畔にハイカラなドームが建つてゐてあらう。(山本)

(日繪寫眞を見よ)

## ●木星接近す

木星の出現時刻が益々早くなつて來た。そして遂に三月五日に衝となし、即ち太陽と丁度反對の側に來るので、吾が地球からの距離も亦最も近い、此の距離四・四二六(天文單位)即ち一億六千六百萬里。直徑は赤道が四十四秒四、兩極が四十一秒六。光度は負二等級。望遠鏡で望むと此の木星の表面には赤道に並行して若干の暗帯が見え、注視すると此の帯が星の自轉のために運動してゐるのが見ゆる木星の自轉は赤道部に於いて九時五十分であるが、赤道以外では九時五十分を費すのが定説である。

衛星は總て九個、其の中で特に大きなもの四個は一六一〇年が初めて望遠鏡を用ひて発見したもので、今も最も視易い。他の五個は大望遠鏡でなくては見えない。

## ●珍らしい新小遊星

近著報によれば昨年十月三十一日獨逸ハンブルク市ベルグドルフ天文臺でパーデ(W. Baudt)氏が光度十三等の一小遊星を発見し之れは假に 1920HNと命名せられた。しかるに其の後、ベルリンのストラケ(Strake)氏が計算した軌道による。

太陽までの平均距離

四・九七天文單位  
三二・〇八五秒

週期 一〇・九五五年  
 さいふのだから大體は木星の軌道に近いもの  
 即ち所謂トロイ群に屬するもの、やうに思は  
 れるけれど、尙其他に

軌道の離心率 〇・六〇九  
 近日點の距離 一・九四四天文單位  
 遠日點の距離 七・九九八同

軌道の傾斜 四十一度二十九分  
 さあるから、全く彗星のやうな行儀の悪い運  
 動をするものであることは驚かされる。

●海王星及天王星の變光 海王星が  
 極めて短時間の間に僅かばかり變光するとい  
 ふことは一八八三年十一月既に、英人ホール  
 (Maxwell Hall) が發見したところであるが  
 其の後一九一五年間氏は再び此の事實を確め  
 た。之れによると海王星は七・一一等から七・  
 六六等之間に變光するので其の週期は七時五  
 十分である。氏は之れを海王星の自轉による  
 と説明してゐる。

天王星も亦短時間に變光するものであるとい  
 ふことが更に其の後、一九一七年に至つて  
 米國ハヴグアド天文臺で發見された。それによ  
 ると變光範圍は五・五九等から五・七四等ま  
 で、週期は十時四十九分。之れも亦星の自轉  
 によるものと考へられる。

之れで見ると木星(自轉九時五十五分)土星  
 (自轉十時三十分餘)天王星、海王星は皆何れ  
 も水星金星地球火星に比べて大きさが大きい  
 にかゝはらず。自轉週期が十時間内外で彼等  
 の半ばにも及ばないことになる。こんなに揃

つた性質については何か進化論上の理由がな  
 くてはなるまい。

●逝けるブレジャー氏 米國ピッツバ  
 ー市の有名な天文器械師ブレジャー氏は昨  
 年四月七日八十歳を以つて逝去した。氏は元  
 ハンシルヴニア州アラウンスビル市に生れ其  
 父は機械技師、祖父は醫師、又母の父は時計  
 師であつたから、自然彼には機械學の天才が  
 宿つてゐた、しかし家は豊かでは無かつた爲め  
 十三歳の時既に學校生活を止めピッツバーク市  
 に出で一鐵工場に職を得た。此所に働く事前  
 後二十年、其の間異常なる勉勵と熱心とを現  
 はし、時には四十八時間も連續不休の勤務に  
 服して人を驚かしたと云ふ。二十二歳にして  
 一嬢と結婚したが當時既に彼は天文學に興味  
 を有し一小望遠鏡を獲て毎夜觀望を楽しみ  
 隣人や朋友等にも勧めて喜びを共にした。愛  
 談は彼れが老年に至つて、よく人に話す題材  
 であつた。壯年に及び激勞のため病を得てか  
 らは醫者の勧めによつて鐵工場を辭し、其の  
 後は二三同心の友と共に好きな天文學の貢獻  
 のため同じピッツバーク市に天文器械工場を起  
 し、エール大學のヘスチングス教授の助力に  
 よつて着々成功の途に進んだ。米國に於ける  
 新式分光器の殆んど總ては實にブレジャー  
 工場の作つたものであり尙大型の望遠鏡製作  
 にも屢々大成功してゐる。例へばアレゲニー  
 天文臺の三十吋レンズ、サンチアゴ天文臺の  
 三十六吋鏡、アンナホール天文臺の三十七吋

鏡最近にはピクトリア天文臺の七十二吋鏡な  
 ど皆彼れの製である。

此等の成功によりピッツバーク市に於けるブ  
 レジャーの名聲は漸次盛んになり種々の社會  
 事業や教育界に關係して益々重んぜられた。  
 一九〇二年には遂に擧げられて同地大學の總  
 長の椅子を占めたことある。又各地の大學  
 から學位を贈られ、名譽ある學會の會員に推  
 薦せられたことも多い。

近年、年老い殊に一九一〇年愛妻が早世し  
 てから俄かに衰へ氣味であつたが、一昨年の  
 末遂に病床の人となり多くの人に惜しまれつ  
 昨年遂に世を辭した彼の遺骸は知己キーラ  
 ー博士及び愛妻のそれと共に生前最も縁故深  
 かつたアレゲニー天文臺の三十吋大望遠鏡の  
 臺下に眠つてゐる。――我が京都大學の十時  
 鏡は圖らずも彼が日本への紀念品となつた。  
 (本誌第一號寫眞及記事参照)

●京都大學理學部天文學の來年度  
 講義科目 先頃決定したものの左の通り  
 新設教授擔任

宇宙物理學 天體物理學  
 天體學の歷史 山本助教擔任  
 星學理論 球面天文學  
 太陽物理學 太陽觀測第一部及第二部  
 天體觀測第一部及第二部  
 天體力學 擔任者未定